

# 特集 不寛容な社会を乗り越える

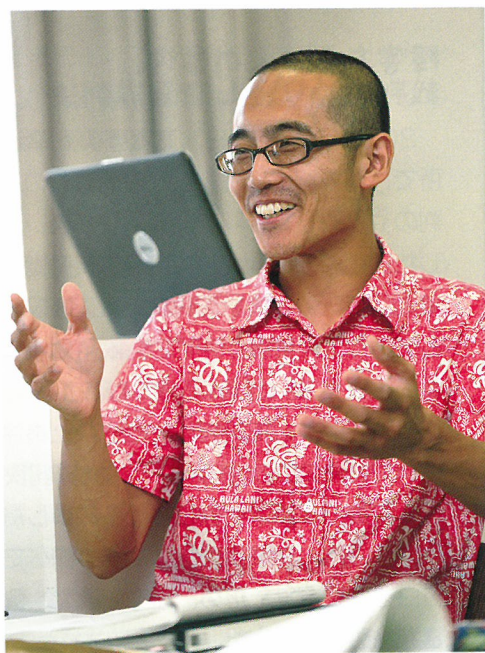
いじめ、いやがらせ、誹謗中傷、差別、戦争…依然、私たちの生きる世界から、人と人が傷つけ合う現象がなくなりません。

私たちは、「相手を思いやらなければならない」、「いじめや差別はいけない」とわかっている、相手の存在を受け止め、大切にできないことがあります。でも、それができない自分だけが悪いのでしょうか？ この特集では、「いのち」を大切にするために、私たちや私たちが生きる社会に何が求められるのかを学び合いたいと思います。

きょうされん専務理事

特別インタビュー 藤井克徳さん

編集長が聴く！



「選ばれるいのちはない」



### 新型コロナ禍で現れた矛盾

塚田 今、社会全体に生産性の重視や他者への不寛容といった雰囲気や漂っていると感じています。働きたくても働けない人たちへの蔑視であったり、障害のある人、子どもや高齢者、女性、LGBTなど自分とちがった立場に置かれていたり人々を邪魔者扱いしたり見下したりする風潮が非常に広がっていると危惧しています。

今回、くしくも新型コロナ禍という状況にあって、そうしたものがより加速されているような印象を受けています。他者や命への不寛容さを乗り越えていくためにはどんな生き方、思想が必要なのか。人を支えていく政策や国のあり方には、なにが問われているのかをいろんな角度からお話いただきたいと思えます。

藤井 まず、新型コロナの問題をどうとらえればいいのかです。とらえ方について、三つの会は、はたしてまともでしょうか」と。さらに一段と声高に、「人間さん、いったん立ち止ってください」と続きます。

グローバルゼーションにしろ、都市一極集中にしろ、そこに共通して見えるものがあります。くっきりと見えるのは、生産性や経済性一辺倒の考え方が、速いことがすべて、強いことがすべてということになります。言い方を変えようとすると、これは、「好ましくない人」になっています。生産性や経済性一辺倒の風潮が広がれば広がるほど、「好ましくない人」への風当たりが強まります。風当たりの後には排除が待っています。「好ましくない人」からすれば、格差や生きづらさを感じることになります。このような状態を「不寛容な社会」と言うのです。そして、この「不寛容な社会」を栄養源にして、差別や偏見がよきよきと勢いを

いながら、結局は、大きく経済優先に舵を切っています。新型コロナ問題の担当大臣が、厚労大臣ではなく、経済再生大臣であることも、政府の本音を物語っています。

三つ目は、優生思想や差別の問題との関係でとらえることです。とくに、「命の選別」の問題は深刻です。すでに欧米の一部では、「トリアージ」（多数の傷病者の発生時に、治る見込みの大きい人の治療を優先させるとする考え方）の下で、人工呼吸器や人工心肺装置をめぐって障害者や後期高齢者は後回しという国が始めています。新型コロナ騒動が治まった後に待っているのは、断絶と後味の悪さだけでしょう。また、国内でも差別の問題が顕在化しています。感染者とその家族への、そして医療従事者とその家族への差別や偏見は深刻です。ほかに、新型コロナ禍で見過ごしてはならない問題があります。危ういのは、憲法と緊急

事態条項を無理に関係付けて、改正の実績をつくろうとする動きです。全世代型社会保障改革も、ペースダウンに見えますが、むしろ力を蓄えているとみるべきではないでしょうか。

### 差別に共通する視点

塚田 新型コロナ禍で起きている物事の本質はなんでしょう。か。今のお話で、「潜っていた問題の表面化」とありました。が、その点をもう少し詳しく話してもらえませんか。どうも障害者差別の問題ともつながるような感じがするので。

藤井 強い引き潮をイメージしてください。真っ平に見えていた海面の下からゴツゴツとした岩肌が見えてきます。私たちが脅かしている新型コロナの問題ですが、脅かすことに加えて、まるで潮が引いた後のように社会のひずみや矛盾を表面化させているのです。耳を澄ますと、ウイルスたちの大合唱が聴こえてきそうです。「今のよう

視点を提示しましょう。一つ目は政策という視点です。現在の政策だけではなく、過去の経緯も視野に入れるべきです。例えば、保健所減らしなど公衆衛生政策の軽視は象徴的です。この30年間、「小さな政府論」の下で、福祉と並んで命や健康に直結する公衆衛生予算を大幅に削ってしまいました。障害関連の政策に引きつけてみると、日額払い方式の問題点やクローズアップされました。この仕組みだと、今回のように休業や自粛で利用者が来られなくなるときに、作業所の運営費が減っちゃうわけです。運営費は、障害のある人の生活を守り、職員の生活を守るために安定して確保されなければなりません。このように、新型コロナ禍は潜っていたさまざまな政策上の本質問題を一気に浮かび上がらせたのです。

二つ目は、政治の問題であり、とりわけ政府の姿勢が気になります。「命も経済も」と言